

令和2年 12月 16日

関西学生オリエンテーリング連盟
競技部長 伊藤 良介 様

関西学連第 2回定例戦実行委員
(実行委員長) (平田沙弥)

定例戦実施報告書

定例戦実施報告

令和2年 11月 1日、(大阪大学・神戸大学・奈良女子大学オリエンテーリングクラブ) は (滋賀県蒲生郡竜王町 希望が丘文化公園 青年の城) において、令和 2年度関西学連第2回定例戦を実施したことをここに報告する。

1. 実行委員長報告

本大会はコロナ感染症への不安があった一方、良い気候・天気に恵まれ、Gクラスや高校生なども含めたくさんの参加をいただいた。主に参加者からは楽しめたという声が多かった。ただ、申し込みオンライン化において一部の参加者からわかりづらい・できないというご意見をいただいた。これは会場申し込み受付予定であった大会が延期してしまったのも原因があると考えられる。改善策として、要項を早めに出し、早めに大会受付を開始することが大切であると感じた。

また、予算案に景品代を組み込むことを失念していた。さらに景品が足りず表彰までに時間がかかる原因となってしまった。

2. 運営責任者報告

私からは以下2点を報告する。

I. 当日参加申込について

今回、コロナ対策として、当日申込用のgoogleフォームをweb上に公開して、先着順で受け入れた。しかし、何時から申込が可能なのかや参加者への周知が上手くいかず、一部混乱が生じた。また、当日参加費も手渡しではなく、後日の振り込みにしたが、振り込みを忘れる参加者が多く、会計の決算確定に時間がかかっている。

反省として、当日参加費は手渡しで良かったかもしれない。また、当日申込のweb公開は仕組みをしっかりと整えておけば、運営者としても楽になると感じた。

II. 希望が丘の渉外について

希望が丘の渉外問題が生じた。すでに滋賀県協会には報告しており、トレインクローズには至っていない。滋賀県協会に報告した内容と同じ内容を報告する。

1回目の現地渉外(9月16日)で希望が丘の施設の職員と面会し、施設が所有するオリエンテーリング用地図を販売して欲しい(1枚50円)と言われ、承諾した。

当日、施設に施設の所有する地図は売れなかったため、施設の地図を使用しないと報告したところ問題が生じた。

施設は昨年度までは施設の地図を利用しなくとも、施設以外のOmap(滋賀県協会のOmap)を用いてオリエンテーリングをする際は1枚50円集金していたと言われた。ただ、施設もその論理はおかしいという認識があったとのこと。そこで、今年度から、施設以外の地図を使う際に、一部コースに施設のパーマネントポストを組み込み、組み込んだコース枚数×50円集金することになったと言われた。

施設の言い分は上記の通りだが、運営者は以前の状況を知らされておらず、今年度のことについても上記の様には聞かされていなかった。(1回目の現地渉外に同席した運営者にも確認済み)このような齟齬が生じたため、渉外問題が生じた。当日は施設側の意向を受け、参加者数×50円を支払った。

今回の問題に関して、すでに運営者は関わっておらず、滋賀県協会が取り組んでいると思われる。また、この件で疑問点がある際は、連絡して頂きたい。

3. 競技責任者報告

初めに、滋賀県で大会を開催する場合、守山高校や膳所高校の生徒が多数参加する可能性があることに留意すべきであった。

それらの参加者層は自前のEカードを所有しておらず、いくつかの反応しないEカードを使用することになってしまった。

その結果、Eカードに起因する失格者を出してしまい、競技者の満足感を削ぐことに繋がった。この点については、数に余裕のある計時機器貸借をしたり、申し込み期限を早めにして対応したりするなどして対策を取るべきである。

競技については、基本に忠実な者が好記録を残せるコースを組んだ点が参加者からの評価に繋がった。特に、新型コロナウイルスによる影響で競技経験が積めていない新入生に相応しいものであったと言える。

4. 大会コントローラ報告

昨今の社会情勢から様々な大会が中止・延期となる中で、本大会は本来の日程で開催することができた。無事に開催に至った要素として、渉外先とのトラブルがなく、急な変更点や制限事項が抑えられたことが大きい。また新型コロナウイルスの感染拡大阻止の観点から、人員配置や事務処理に配慮し、大会参加者への注意喚起を心掛けた。競技面は、テレイン特性を生かしつつも運営負担を減らした良質なコースが設定され、当日の不備が生じることもなく無事に終了した。例年本大会は新人戦を兼ねており、新人クラス重視の大会内容となるが、今年度は新人の競技経験値や参加者数がともに少なかったこともあり、貴重な練習機会としての役割を持たせるように配慮した。新人育成の観点から、今後も関西学連全体でできる限り練習機会を提供していくことが望まれる。

5. 将来への提言

本大会で新たに行った当日申し込みのオンライン化は感染症対策としてだけでなく運営者の負担も軽減するため円滑な運営に有効であると考えます。

また社会情勢やテレインの立地、気候などに十分に考慮して見込み人数を考える必要がある。

上記及び、関西学生オリエンテーリング連盟競技部長へ提出されたスタートリスト及び公式成績を併せて定例戦実施報告書とする。

以上